

「とある日の幻想殺し」の続編に当たる二冊目です。設定調整のため「とある日の幻想殺し」の改訂版も収録しました。また初めてカバーをつけた作品です。ここから無謀な挑戦が始まったとも言える訳で……（カバー付きの印刷費マジで高いです！）。

頭では考えていたけど本になる予定がなかった今作ですが、前作ラストで木原の実験体として生死不明になった加治を捜すお話となります。能力が暴走し、都市伝説『彷徨う幽鬼』と化した加治と戦うのは上条と美琴だけでなく一方通行もという中々欲張ったお話になりました。

続編なので新しいオリキャラはいませんが、前作から引き続き登場の、加治の彼女である「御凧司」。前作ではほんわか系のお嬢様でしたが、加治を捜す力を得るため、短期間で若干武闘派っぽくなりました（元々合気道をやっていたという設定はありました）。

前作、上条と加治を一騎打ちさせるため、美琴の動きを止めた『制御収奪』という能力にしていました。相手の体に直接触れなければいけなかった制限が、声を相手に認識させればOKという条件に緩和されています。単純に考えると強いです。音さえも反射する『彷徨う幽鬼』には意味がない訳で。

本来予定にはなかった話ですが、加治の救済ができて今では書いてよかったなと思います。ただタイトルはもうちょっと捻ればよかったと後悔があります……。

